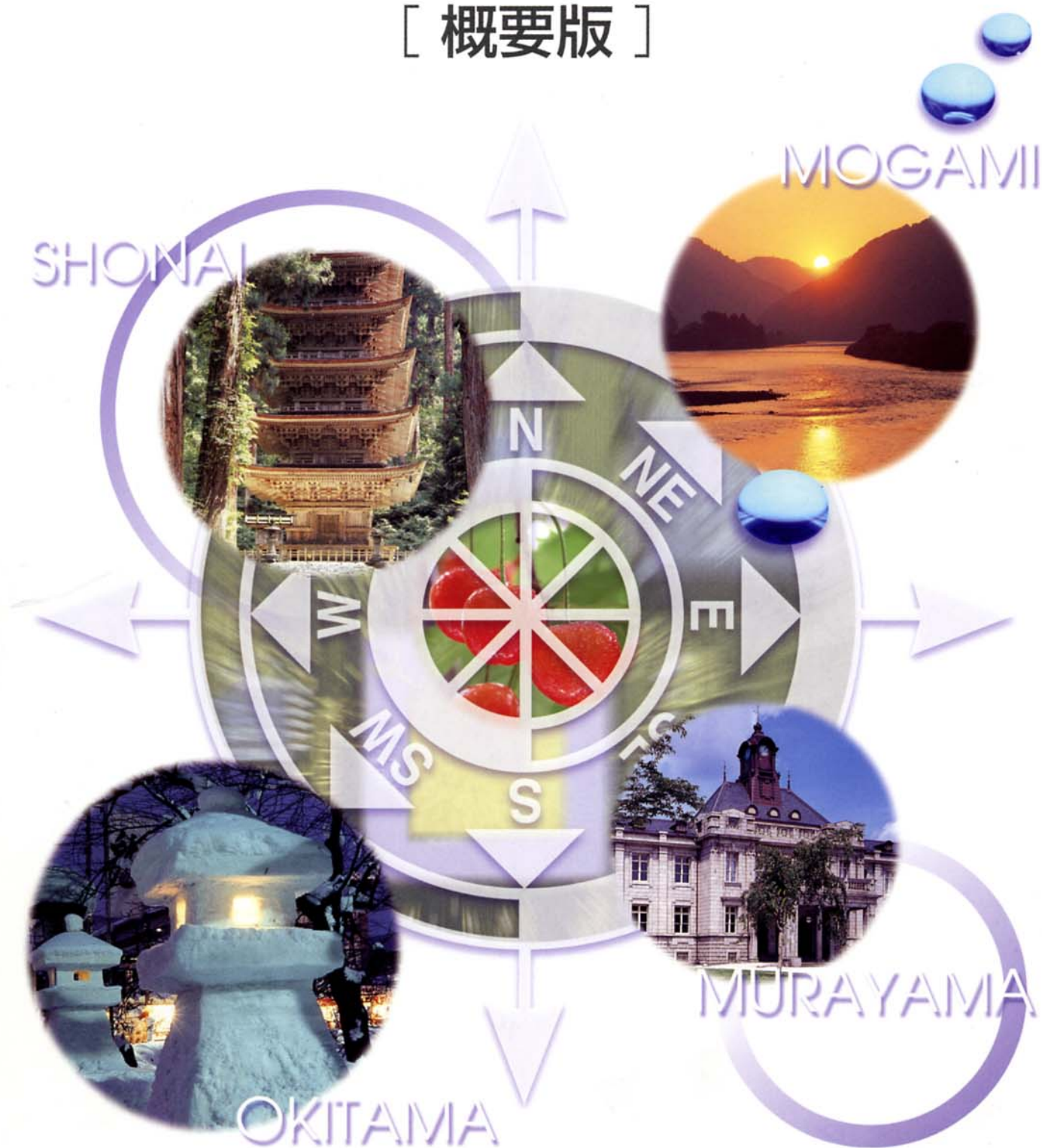


山形県新総合発展計画 後期主要プロジェクト

[概要版]



平成12年10月
山 形 県

人 はばたく ゆとり都 山形

(計画推進のシンボル)

美しい山形へ

美しい環境の中で、21世紀の山形を担う創造力溢れた人材を養成することを通して、文化活動を活発にし、個性豊かな自立する山形をつくります。

豊かな山形へ

県民一人ひとりが持て自己実現を図ることを産業活動をつくりだし、

へ

る能力を最大限発揮し、基礎に、革新的で力強い豊かな山形を実現します。

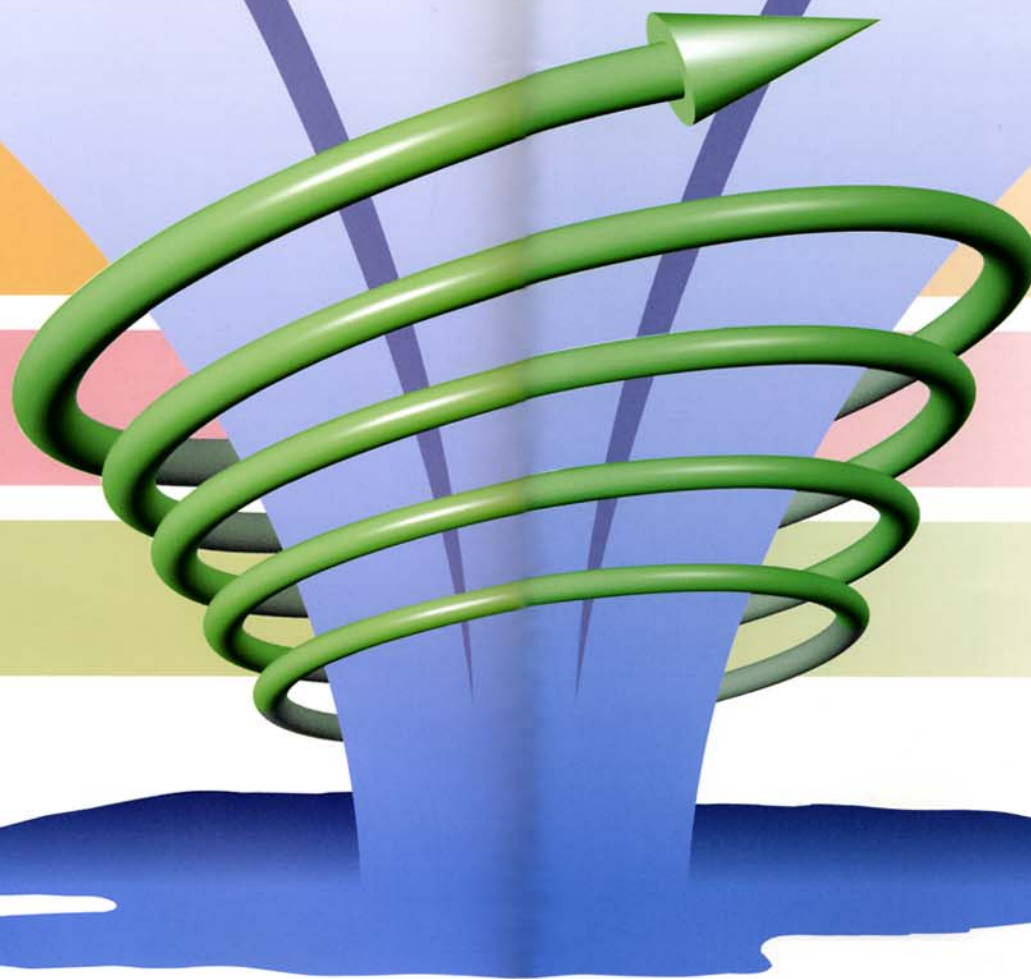
開かれた山形へ

情報技術などを巧みに活用し、にぎわいのあるまちづくりなど山形らしいライフスタイルが実現できる、交流広がる県土づくりを進めます。

創造

交流

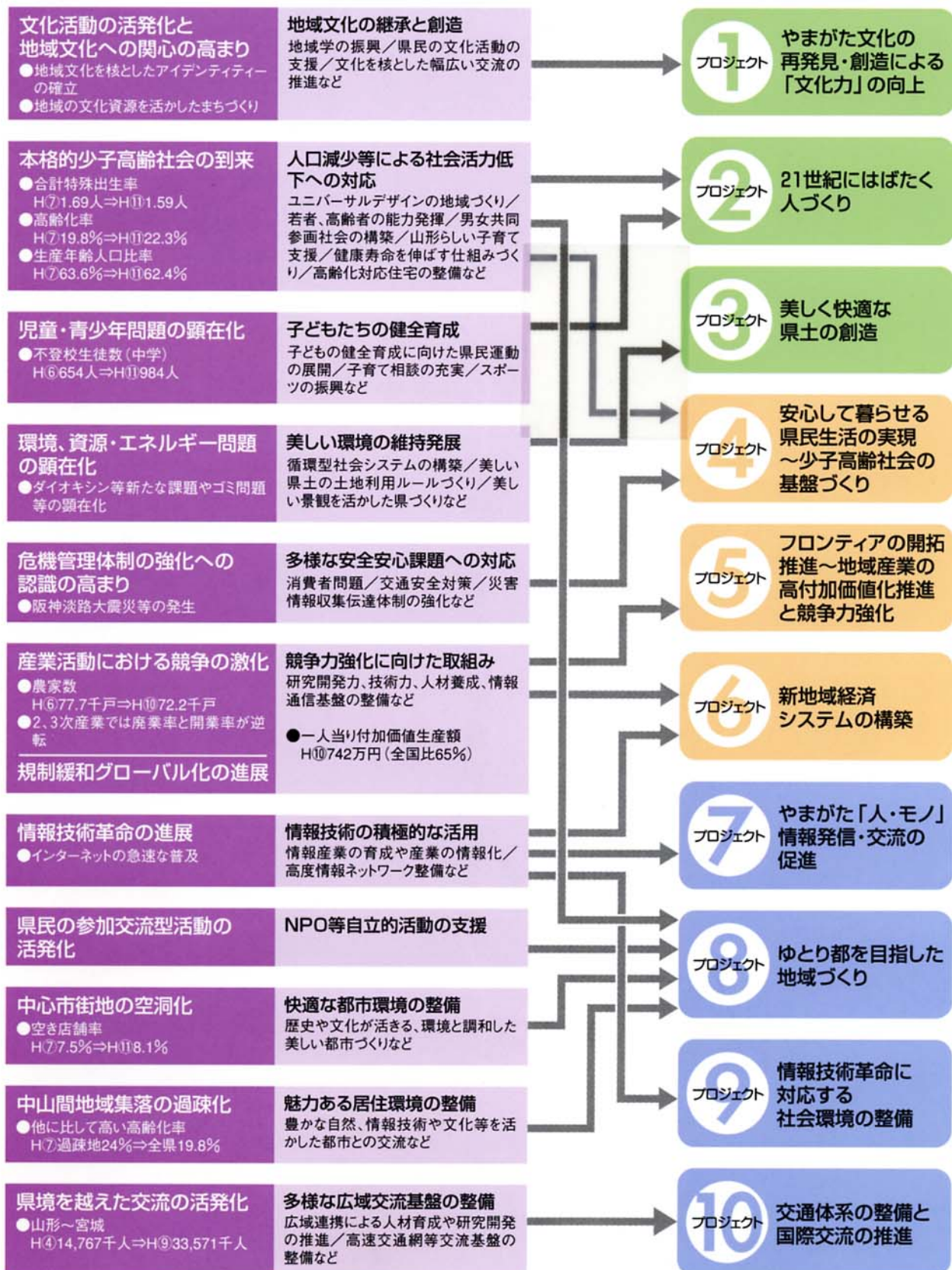
参加



新総合発展計画後期主要プロジェクトの体系

時代の潮流等と主な課題

後期主要プロジェクト



美しい山形へ

豊かな山形へ

開かれた山形へ

プロジェクト

やまがた文化の再発見・創造による「文化力」の向上

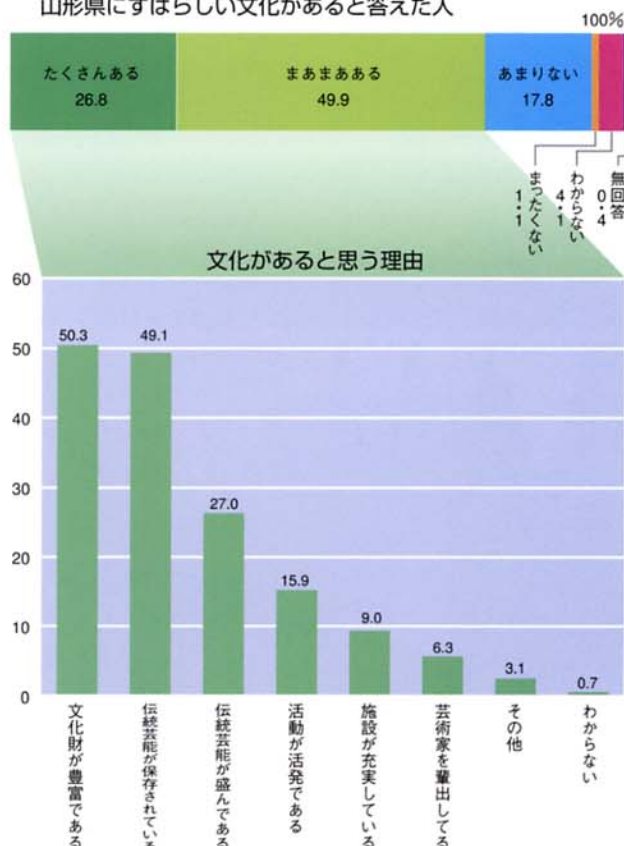
背景と趣旨

ゆとりややすらぎなど心の豊かさが重要視され、文化への関心が高まってきております。山形県の各地域には優れた文化が数多くありますが、これらの文化をさらに磨き高めていくことによって、地域の魅力を増していくことが重要です。県外・海外との文化交流も盛んに行われております。県内の文化施設や研究機関なども整備され、文化活動の基盤が整ってきました。今後は、これらの基盤を活かしながら、県民参加による文化活動や、新しい文化の創造活動を進め、山形県の文化を高め、幅広く情報発信していきます。



重要文化財を今にいかす文翔館コンサート（山形市）

●地域文化に対する評価（平成9年県政世論調査） 山形県にすばらしい文化があると答えた人



主な施策

①21世紀に引き継ぐ「やまがた文化」の継承と発展

●「21世紀山形文化創造プロジェクト」の推進

齋藤茂吉など本県出身や本県に縁のある文化人の偉業や人となりを通して、本県の自然、風土、歴史、文化を改めて見直し、新たな時代における人や地域のあり方を探りながら、地域の文化力を高め、個性と自信にあふれた地域づくりを進めます。

●やまがた文化の再発見・創造と「やまがた学」の充実

東北文化研究センター等と連携しつつ、歴史的建造物や伝統芸能など21世紀に引き継ぐ文化資源の掘り起こし、「やまがた文化」の再発見・再評価を行ないながら、やまがた学をさらに深め、個性が輝く創造性にあふれた地域づくりを促進します。

②やまがたの文化を創造する県民活動の推進

●県民の文化活動の拠点整備とネットワーク化

県民の文化活動がなごり層活発化するよう、山形駅西口における新文化施設の整備を推進するとともに、置賜広域文化施設（仮称）やゆめりあ等文化施設相互のネットワーク化を図り、県民に喜ばれ楽しんでもらえる文化事業を積極的に展開していきます。

●国民文化祭の開催

全国民の文化の祭典である国民文化祭を平成15年に開催し、県民の文化への理解や取組みを深めるとともに、「文化のやまがた」を全国に発信します。

●地域の新しい文化空間やソフト基盤づくりの推進

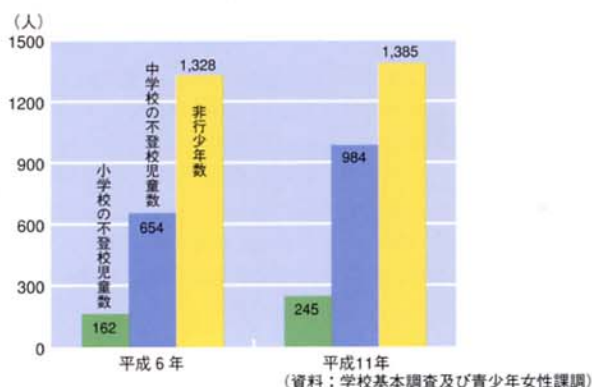
国内外の一流芸術家が滞在して作品の制作・展示・地域との交流を行うアーティスト・イン・レジデンスや芸術家村の検討を進めるとともに、文化事業を企画できる人材の育成等を推進します。

2 プロジェクト

21世紀に心をつなぐ人づくりの推進、地域の発展を先導する人材育成の強化

背景と趣旨

家庭や学校、地域の教育力が低下してきています。特に最近、いじめや不登校、青少年犯罪、児童虐待など様々な問題が生じてきており、改めて家庭、学校、地域の役割が問われています。少子高齢化が進行しており、次代を担う子どもたちの生きる力や豊かな人間性を育てていくことが、ますます重要なものとなってきております。また、国際化や、情報技術革命・科学技術の進展などに伴い、このような世の中の流れに対応しうる高度で優れた人材の育成が急務となっております。これらの課題への取組みを早急に進めます。



若者の知恵を集める東北芸術工科大学（山形市）

主な施策

①21世紀にこころをつなぐ人づくりの推進

●次代を駆ける主役づくりの推進

健やかな子どもの育成に向け、行政、マスコミ、企業等の連携による県民運動を展開するとともに、子育てなどについて安心して気軽に相談できる機能や育児サークル等子育て支援機能の充実強化を図ります。

●山形県独自の教育改革の推進

地域の意見を取り入れた新しいタイプの学校の創設、柔軟な学級編成、民間人の参画による個性的な学校経営の推進など、山形県独自の教育改革を大胆に進めていきます。

●地域の資源や英知を活かした教育の展開

ボランティアや文化の伝承といった地域活動、老人保健などの各種施設、企業の経営者・技術者など地域における多様な資源や能力を積極的に活用して多様で幅広い教育の展開を図るとともに、学校の施設や専門知識を広く地域に還元し、県民・地域の持てる力を最大限に活用した教育の推進を図ります。

●多様なニーズに対応したスポーツの振興

県民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう総合型地域スポーツクラブを育成するとともに、オリンピック等国際大会で活躍できる選手の育成を目指して競技力向上に取り組みます。

②地域の発展を先導する人材育成の強化

●地域のポテンシャルを発揮する高等教育機能の強化

単位互換や施設の共同利用を通して県内大学の総合力が発揮される仕組みづくりを進めるとともに、新規創業や新分野進出等の促進に向けて、優れた経営能力等を有する人材を養成する経営大学院を整備します。

●世界的な研究機能の整備と人材の育成

環境分野で国際的な役割が期待される先端生命科学研究所をはじめ、環境科学研究センター（仮称）や東北公益文科大学など、個性的で優れた研究機能の整備充実を推進するとともに、技術革新や情報化に対応できる人材の育成に向け、大学生の企業での実習訓練や大学と公設の試験研究機関の連携等を進めます。

背景と趣旨

イザベラ・バードが見た風景を彷彿させる散居集落（飯豊町）



1878年、本県を訪れたイギリス人の旅行家イザベラ・バードは、美しく耕された山形の地を見て、アジアのアルカディア（理想郷）と讃えました。彼女の足跡にちなみ、置賜から最上までの各地域の文化などの資源を活かしながら、景観の保全・創造、地域の活性化を進めます。

4 プロジェクト

安心して暮らせる県民生活の実現

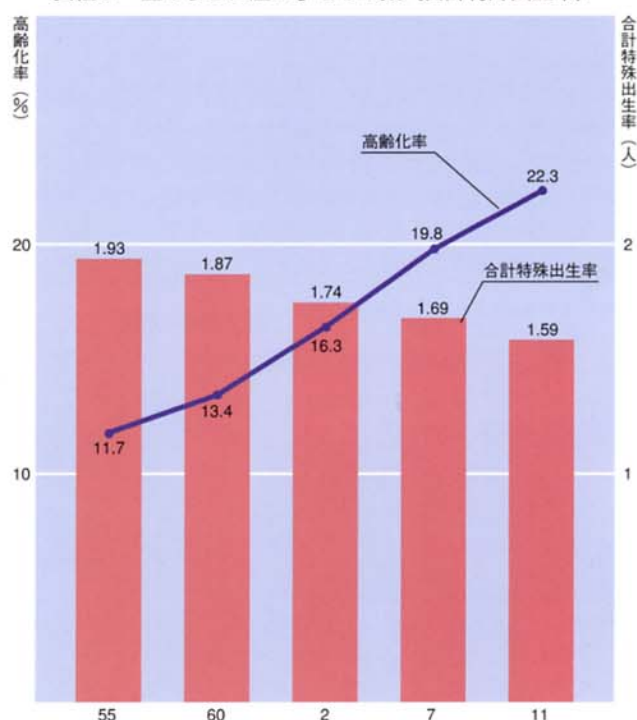
背景と趣旨

子どもの数の減少や若者の県外への転出などにより、人口の減少が進み、社会・経済の活力低下が懸念されています。また、生活の多様化などに伴い、生活習慣病（がん、心疾患、脳血管疾患など）による死亡率が全国に比べても非常に高くなっています。さらに、地震などの災害や環境ホルモン、交通事故など社会面、生活面での様々な不安要因が増えてきております。このようなことから、県民すべてが、安心して安全に生活することができるための幅広い取り組みを進めます。



わらすこ広場で遊ぶ未来の主役たち（新庄市）

高齢者（65歳以上人口）の割合と
女性が一生のうちに産む子どもの数（合計特殊出生率）



（資料：国勢調査、山形県の人口と世帯数、人口動態統計）

主な施策

①県民の誰もがもてる力を活かせる環境の整備

ユニバーサルデザインによる誰もが活動しやすいまちづくりを県民参加で推進するとともに、若者に対する魅力ある教育・就業の場の確保、能力や意欲に即した高齢者の雇用機会や再訓練の場の提供、男女が等しく能力を発揮できる男女共同参画社会づくり等県民がもてる力を等しく発揮できるような環境づくりを推進します。



②山形らしい子育て支援の形成

三世同居や活発な地域協力活動など山形県の特性を活かし、子育て経験者やボランティア、NPOとの連携を強化しながら、事業所内託児所や共同託児所の設置支援等を推進します。

③健康寿命を延ばし高齢者の自立を支援する仕組みづくり

目標や対応策を明らかにしながら県民参加による「ゆとり都山形健康づくり21行動計画（仮称）」を推進するとともに、自然や温泉資源を活用した県民の「健康づくり拠点機能」のあり方やがんや脳卒中等生活習慣病の予防に向けた大学や医療機関の連携・ネットワーク化等の検討を進めます。また、在宅介護支援センターの整備や、公民館・小学校等の高齢者の生きがい活動拠点としての活用を図っていきます。

④安全で安心できる生活環境の整備

ボランティア等民間の力を活用した防災対策の強化、避難地の確保や生活支援物資の円滑な収集・配送システムの確立等大災害への対応力の向上を図るとともに、消費者問題、環境問題など県民生活をめぐる様々な不安に対応するため、インターネットによる各種情報の提供サービスの充実を推進します。

5 プロジェクト

フロンティアの開拓推進

背景と趣旨

情報化、貿易の自由化、規制緩和等によって世界市場の一体化が進む一方で国内市場も成熟化してきており、低価格、大量生産を中心とした競争は限界にきています。付加価値の高い製品等を供給し、新しい需要を開拓することなどにより、新しい産業分野を切り拓いていくことが急務となっています。このため、研究開発力・技術力・人材の養成等新しい事業を創りだしていく基礎づくりを進めるとともに、経営力の高度化を図っていきます。

農業分野も、農産物価格の低迷等厳しい環境におかれており、消費者の支持の得られる良質な産物の安定的生産・流通・販売体制を確立するとともに、土地利用や技術面から効率的な経営を一層推進し産地間競争力を強化していきます。



新しい産業フロンティアを目指し進められている先端分野の研究



主な施策

①科学技術創造立県の推進

大学、公設試験研究機関、研究開発型企業等の研究蓄積を結集する新たな仕組みを構築しながら最先端の創造的研究開発を世界に向けて発信できる質の高い研究開発拠点を形成するとともに、それぞれの機関の研究成果の地域社会への還元を促進します。

②フロンティア開拓と地域産業の活性化

大学の研究成果を企業に移転するシステム構築など、新規創業・新分野進出に意欲のある中小企業者などへの支援体制の整備を強化します。また、企業間・産業間の連携や、地域資源を活かした新商品の開発を支援します。

③市場・流通新時代を拓く産地づくりの推進

「米どころ山形」の産地競争力を強化するとともに、大豆などの土地利用型農業を活性化していきます。また、さくらんぼなど本県の顔となる果樹などの栽培を振興し、本県のイメージアップを図るとともに、生産・流通を一体化し、農産物の流通販売を戦略的に行っていきます。

④新時代における“農”の技の担い手を支える農業基盤の確立

本県の農林水産業を支える意欲ある担い手や他産業や県外在住者からの参入も含めた新規就農者など担い手の育成・確保のための施策を充実強化していきます。また、農業者の要請に迅速に対応できる技術開発体制を整備します。

⑤安全・安心農業立県の推進

土地・水等農業資源の保持、生態系保全に配慮した持続性の高い農業生産方式を進めるため、土づくりの推進、ふん尿リサイクル処理体制の拡充、プラスチック等農業廃棄物の適切な処理など、環境保全型農業の総合的な推進を図るとともに、減農薬等による生産方式の推進により、消費者の安全・安心志向の高まりに対応した付加価値の高い農業を展開していきます。

プロジェクト

新地域経済システムの構築

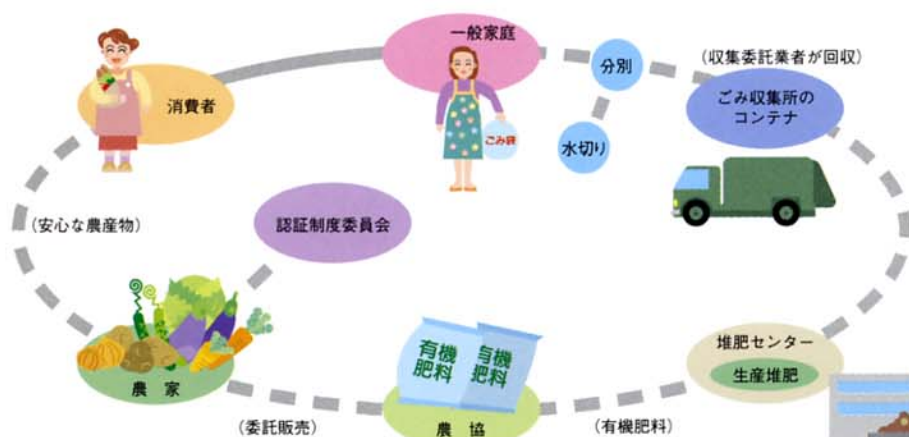
背景と趣旨

市場のグローバル化、成熟化が進む一方で、目に見える身近なところで生産や消費がなされたほうがよい場合も少なくありません。豊かな消費生活を実現するためには、市場のグローバル化への対応に加えて地域で生産されるものは地域内で流通・消費できるようにする地域循環型の経済活動を重視していくことが必要です。また、規制緩和や経済活動の自由化によって、新しいビジネスの機会も増大してきています。このため豊かな県民生活の実現に向けて、環境、福祉、文化、農業・農村などの地域の生活に密着し、地域資源を活かした地域循環を基調とする産業経済の仕組みづくりを進めるなど、地域内の力で自立的に発展していくことができる産業づくりを進めます。



空き店舗を活用した若者の起業化の取組み

農家と消費者が協力してつくる安全安心な農産物を地域で消費する仕組み



地域の農産物を販売する青空市場

主な施策

①インターネット情報の地域内交流の促進

技術力や労働力などの地域の資源が効率よく活用されるように地域内情報の検索システムを充実させるとともに、情報通信の高速化を進めるなどインターネットの地域的利用環境の向上を進めます。

②豊かな消費を支えるおいしい山形づくり運動の推進

品質の良い県内産の農水産物の生産と県内消費を進めるために、生産者と消費者が信頼しながら取引できる仕組みや、県産品が入手しやすい流通ルートを実践させます。

③地域を元気にするコミュニティ・ビジネスの振興

地域の課題に対応し、生活に密着したサービスを提供するコミュニティ・ビジネスの起業化を促進するため、担い手を育成し、支援する環境の整備を進めます。また、インターネットなどを利用した在宅勤務など、多様な就業環境づくりを進めます。

④ゆとりと豊かさを創造する生活・社会支援産業の振興

生活関連分野での新規創業・新分野進出を支援するとともに、バリアフリー住宅など快適な生活・居住環境づくりのための新事業の開発を促進します。また、まちづくりなどと連携した、文化の産業化を促進していきます。

⑤まちづくりビジネスとしての商業振興

地域づくりやまちづくりの視点に立ち、民間のまちづくり組織の活動を重視しながら、空き店舗の活用や流動化を促進するなど中心市街地・商店街の活性化を進めていきます。また、配送の共同化や情報技術などの活用などによる効率的で高度な物流システムの検討を進めます。

7 プロジェクト

やまがたの「人・モノ」 情報発信・交流の促進

背景と趣旨

山形は、美しい四季の移り変わりなどの自然や、伝統芸能などの優れた地域文化、多様な食文化など豊かな文化に恵まれています。私たち県民が、地域に自信と誇りを持ち、愛着を感じるようになるため、こうした山形の魅力を見直したり、掘り起こしたりしながら、山形の情報を積極的に外に発信し、外の人から地域の魅力やすばらしさに対する評価を得ていくように努めます。また、余暇時間の増大に伴って、観光、レクリエーションへの関心が高まってきている一方、小グループ旅行、体験旅行など旅行のニーズや形態が多様化しています。これらに的確に対応できる、メニューの設定やPRなど、様々な取組みを進め、幅の広い地域交流・人の交流に結びつけていきます。



温泉山形を全国にPRした山形新幹線ポスター



農産物のもとより山形には自慢できる素晴らしいものが、たくさんあるのです

主な施策

①やまがた総合キャンペーンの実施

マスメディアや映画を介した山形からの情報発信、全国イベントの開催にあわせた総合キャンペーンなど積極的に山形のイメージアップを図るキャンペーンを展開します。

②やまがたの「彩りくだもの」情報発信戦略の推進

さくらんぼやラ・フランスなど、全国ブランドとなっている本県の果物をシンボルに広報キャンペーンを展開し、新しい地域イメージをつくっていきます。

③やまがたファンネットワークづくり

出身者などやまがたに愛着をもっている本県縁の人や全国イベント等で本県を訪れた人々をやまがたファンにし、やまがたの良さを広く効果的に発信する仕組みづくりを進めます。

④やまがた21世紀ライフスタイルの発信とUJIターンの促進

美しい自然や豊かな地域文化など山形の良さを活かした山形ならではのライフスタイルをつくりあげ、その魅力を広く発信していくとともに、幅広い雇用場の創出や自然の豊かさと利便性を享受できる住環境の整備などを通してUJIターンの促進を図ります。

⑤やまがたの新しい魅力と感動を伝える観光の振興

「四季感動の山形」をテーマに、地域の文化や特産品、グリーンツーリズム等地域の魅力を組み合わせた新しい観光の魅力づくりや、ボランティアガイドの養成、小グループ旅行への対応など多様なニーズに対応した受け入れ体制づくりを進めるとともに、観光情報センターを核とした観光情報発信機能の強化を図ります。

ゆとり都を目指した地域づくり

背景と趣旨

都市部では、中心部の人口が減少する一方、周辺部に住宅地が拡大し、中心市街地の空洞化が進んでいます。また、中山間地においては、過疎化や高齢化が進み、集落の機能を維持していく上で、大きな課題を抱えるところも見受けられます。コンパクトな都市づくり、ゆとりある生活を実践できる農山漁村の整備など新しい地域づくりを推進していくことが重要です。また、近年県民の主体的な参加による地域づくりが活発になってきており、保健・福祉、スポーツ、環境など様々な分野において、ボランティア活動やNPO活動に対する期待が高まってきております。このような活動を促進しながら、県民主体の地域づくりを進めていきます。

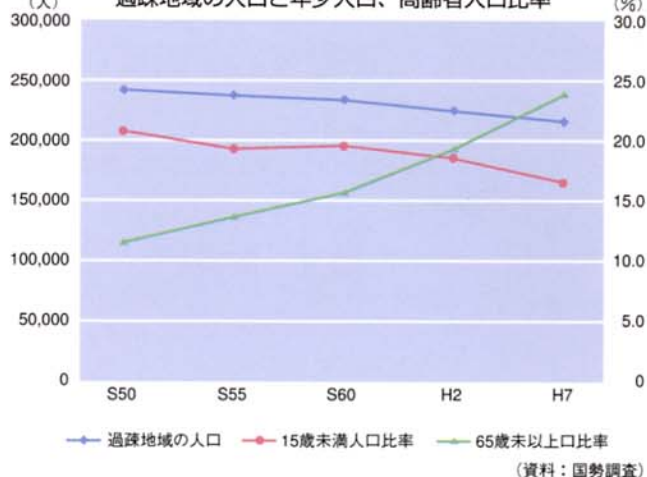


豊かな自然が都会の人々を
引きつけています(グリーンツーリズム)

空き店舗率(法人格をもつ商店街)



過疎地域の人口と年少人口、高齢者人口比率



主な施策

①コンパクト交流文化都市構想の推進

少子高齢・人口減少社会の中で、商業を中心に経済活動を活性化し、快適な居住空間や賑わいと交流にあふれた都市空間を形成するため、「コンパクト」「交流」「歴史・文化の活用」をキーワードとするコンパクト交流文化都市づくりを進めます。パーク・アンド・ライド等新たな都市交通システムや公共交通機関のバリアフリー化、周辺地域の農産物等を都市で消費するシステムの検討を進めるとともに、遊休公共施設等を子育て支援や高齢者に対する福祉サービスの場として有効活用したり、まちづくりに県民参加を促進する仕組みづくりを検討します。

②中山間地域等農山漁村の活性化

●地域の個性を活かした魅力ある生活様式の構築

豊かな自然、地域の歴史・文化などを活かした魅力ある居住環境づくりを進めるとともに、農園付き住宅によるマルチハビテーション等農山漁村の魅力を積極的に活かすライフスタイルを提案していきます。

●中山間地域の活性化を支える魅力ある新産業の振興

生物エネルギーや太陽・風などの自然エネルギー、循環型農業など地域資源を活用したニュービジネスの掘り起こしを行なうとともに、グリーンツーリズムなどの新産業の立ち上げを支援する相談・支援機能の充実を図ります。

●生活を支える質の高いインフラの整備

文化・スポーツ及び教育施設などへのアクセス改善を図るとともに、高齢者が安心して暮らせる医療福祉システムや高度情報システム等の整備を進めます。

③企業、NPO、行政等の連携による県民主体の県づくり

県民主体の県づくりに大きな役割が期待されるNPO活動を支援するため、山形創造NPOネットワークと連携しNPO支援の地方拠点となるパートナーシップオフィスの展開支援などNPO活動促進のための仕組みづくり等を推進します。

9 プロジェクト

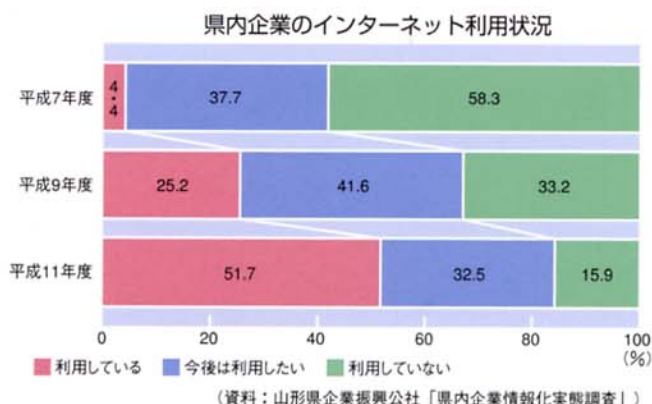
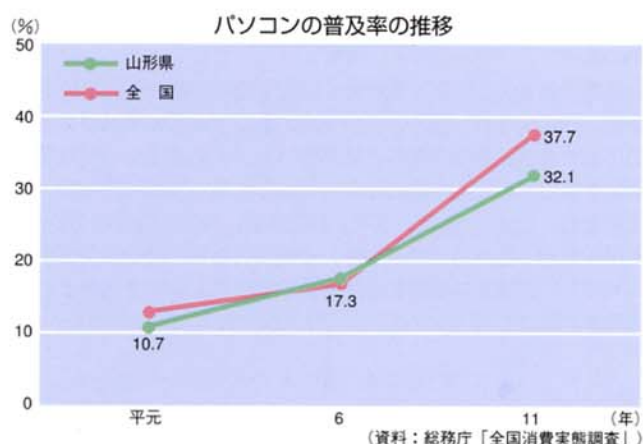
情報技術革命に対応する 社会環境の整備

背景と趣旨

近年における情報通信技術の発達にはめざましく、県民の生活、経済、産業など、あらゆる分野において革命的ともいえる変化をもたらしています。こうした中で、パソコンなど本県における情報通信機器の普及は低位にあり、情報の入手や活用面で格差をうむことが懸念されております。また、行政においても、サービスの高度化、組織等のスリム化、効率化や県民への情報提供・説明能力の向上などが求められてきております。こうしたことから、県民生活、産業などあらゆる分野において、情報通信技術の積極的な活用を図るとともに、地域間の情報格差の拡大を回避し、行政の効率化を図るための総合的な情報化への取組みを進めます。



人々の生活に幅広く活用されるパソコン



主な施策

①県民の利便性向上と地域づくりを進める情報ネットワークの整備

インターネット上に分散する本県地域情報の活用を高めるため山形県地域総合サイトを構築するとともに、県民相互の情報交流や連携を促進する県民イントラネットの敷設、インターネットを使って県外在住者にやまがたの魅力を幅広く紹介し県づくりに参加してもらう「I ネット山形県民構想」等を推進します。

②情報化を効果的に産業分野に取り込むための基盤づくりの推進

県内企業の持つ技術やサービス等の情報をデータベース化して発信したり、産業創造支援センターを活用して情報ベンチャー企業の育成を図ったり、公設試験研究機関と大学等を情報通信網で結んで学術研究ネットワークを形成するなど、産業分野で情報技術を効果的に活用するための基盤づくりを推進します。

③情報技術を活用した行政サービスの向上(電子県庁)

インターネットを活用したオンラインによる申請・届出手続きの導入、総合的な防災情報や道路交通情報等各種行政情報の効率的な提供、県政に対する県民意見の聴取、市町村等行政機関相互のネットワーク化など、行政サービスの向上や行政の効率化等に向け、県行政全般における積極的な情報化の推進を図ります。

④情報技術を気軽に手軽に活用できるための環境づくりの推進

県内全域で手軽にインターネットが活用できるよう基幹高速通信ネットワークの整備を進めるとともに、ケーブルテレビや移動体通信サービスのエリア拡大等を促進します。

⑤情報化に対応できる人づくりの推進

高度情報化社会への対応に向け、児童・生徒の、情報に関する知識・技術の向上や地域の情報化を推進するボランティアの育成を図るとともに、地域における情報利活用、技術学習などのためのデジタル・ラーニングセンター(仮称)の整備等を検討します。

10
プロジェクト

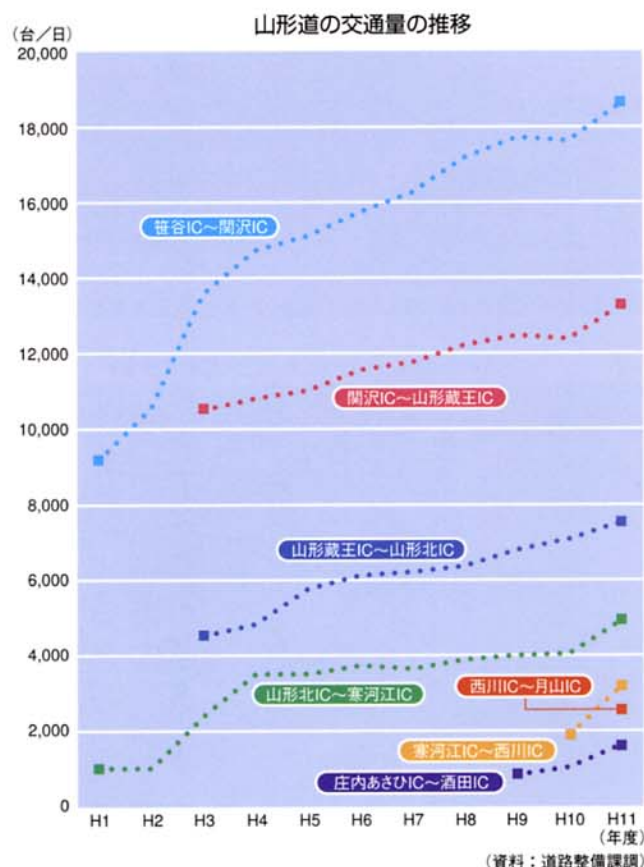
交通体系の整備と国際交流の推進

背景と趣旨

山形新幹線の新庄延伸や東北横断自動車道酒田線の整備など本県の高速交通体系の整備は、着実に進んできましたが、まだ十分とは言えません。一方、高齢化の進展や環境問題などに対応するため、人にやさしいまちづくりを支える交通体系の整備が求められています。高速道路など計画されている路線の少しでも早い完成を目ざすとともに隘路となっている区域の課題解決に向けて対応を進めてまいります。また、バスなど公共交通機関の確保、利便性の向上に努めていきます。さらに、着実に進展する国際化に対応し、国際的な視野に立って活動できる人材の育成などに努めます。



平成11年新庄延伸を実現した山形新幹線



主な施策

①全国・世界を結ぶ空港の活性化

全国の主要都市との交流ネットワークを強化するため、小型機の活用を含め、東京をはじめとする主要空港との路線の充実や新規路線の開設を進めます。また、国際交流の推進に向けて、国際チャーター便の運航促進や国際定期路線の開設、さらには関西国際空港、成田空港など国際空港との路線の確保に向けた取組みを推進します。

②鉄道の高速化の推進

首都圏や仙台圏との交流を一層拡大するため、羽越本線や奥羽本線の高速化、仙山線の機能強化に向け、フリーゲージトレインやミニ新幹線方式の導入、複線化の可能性等の調査・検討を進めます。また、山形新幹線の一層の高速化や安全性・利便性の向上に向けた抜本的な改善のあり方について検討を進めます。

③地域間交流を担う高規格幹線道路等の建設促進

山形～仙台間に新たな地域高規格道路の整備を目指すほか、新栗子トンネル建設をはじめとする東北中央自動車道、日本海沿岸東北自動車道等の高規格幹線道路網の建設促進を図ります。

④地域の生活交通網とやさしい交通施設の整備

通勤、通学、通院等日常生活に欠かせない交通網を確保するため、福祉バスや乗合タクシーの活用なども含め、公共交通機関の利便性向上に向けた多様な取組みを検討します。また、高齢者や子ども、身体にハンディキャップのある人々のために、駅やバスターミナル及びその周辺のバリアフリー化や低床バスの導入を促進します。

⑤環日本海等国際交流・国際協力の推進

環日本海諸国との経済交流の活発化に向け、大連等との定期航路の開設、経済交流ミッション等の相互派遣、台湾等近隣諸国からの観光客の誘致等を推進します。また、国際交流センターを拠点に草の根の国際交流や国際協力を推進します。